

前立腺がん検診の新しい検査法に関する研究のお知らせ

現在、前立腺がん検診を受診した方のなかで、検診受診時に使用した血液が余り、またその余った血液の研究利用への同意の意思を示していただいた方を対象に、群馬大学医学部附属病院泌尿器科と前立腺がんの診断に用いる前立腺特異抗原(PSA)の新しい測定方法の性能評価に関する共同研究を行っております。

研究に際し、対象になるのは、平成22年～平成26年に前立腺がん検診を受診された方です。

研究に際しての調査項目は以下の医学的情報で、あなたのお名前、住所などのプライバシーに関する情報は含まれません。また、保存血清は、検診受診時に研究利用への同意をとれたもののみを使用します。

- (1) 検診受診時の年齢、PSA 検査値
- (2) 保存血清を用いた、従来の PSA 測定法と新しい PSA 測定法による PSA 測定結果
- (3) 保存血清を用いた、よりがん診断精度を上げる遊離型 PSA の測定結果

匿名化された関連する医学的情報は、群馬大学大学院医学系研究科泌尿器科学の研究者により解析が行われます。その研究成果は、前立腺がん診療レベルの向上につながるかと期待されています。また、調査したデータは分析され、医学専門学会や専門雑誌等で報告されることがあります。

本研究に関する医学的データの利用に関しまして、不同意または同意撤回の意思がございましたら、下記連絡先まで、本研究の実施期間内である平成28年3月31日までにお申し出ください。なお、データのご提供を拒否された場合におかれましても、それによって診療上不利になることは一切ありません。

また、この件に関しまして、ご質問等がございましたら、遠慮なくお尋ねください。

また、現代社会では、医学研究の発展にとって研究者と製薬企業等との連携は必要不可欠なものとなっており、国や大学も健全な産学官(さんがくかん)連携(れんけい)を推奨しています。一方で、産学官連携を進めた場合、臨床研究が企業の利益のために行われるのではないかと、研究についての説明が公正に行われたいのではないかとといった疑問が生じることがあります。このように、患者さんの利益と研究者や企業の利益が相反(衝突)する可能性のある状態を利益相反と呼びます。患者さんの利益が最優先されること

は当然ですが、臨床研究においては利益相反の判断がきわめて難しくなっています。そのため、この研究の利害関係については、群馬大学利益相反マネジメント委員会の承認を得ております。また、この研究過程を定期的に群馬大学利益相反マネジメント委員会へ報告などを行うことにより、この研究の利害関係について公正性を保っております。

群馬大学医学部附属病院 泌尿器科
教授 鈴木 和浩

本件に関するご質問・お問い合わせ先:

平日 9:00-17:00

担当者:群馬大学医学部附属病院 泌尿器科 伊藤 一人

連絡先:TEL: 027-220-8317